

新居浜工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)		授業科目	総合英語
科目基礎情報						
科目番号	104730		科目区分	一般 / 同時開講		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	環境材料工学科		対象学年	5		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	Stretch:Starter [著者: Susan Stempleski 出版社: Oxford University Press]					
担当教員	福光 優一郎					
到達目標						
1. CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠) のA1レベルの英語運用能力を身につける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目 1	A 2レベルの英語運用能力がある		A 1レベルの英語運用能力がある		A 1レベルの英語運用能力がない	
学科の到達目標項目との関係						
コミュニケーション能力 (E)						
教育方法等						
概要	CEFR (ヨーロッパ言語共通参照枠) のA1レベルの英語運用能力を確実に身につけることを目標とします。英語の「読む、聞く、書く、話す」の4技能を総合的に訓練できる演習に取り組み、さらにはさまざまな形で英語に触れ、運用する機会を提供します。					
授業の進め方・方法	授業内におけるテキストを中心とした演習と授業外のオンライン教材への各自の取り組みが基本となります。各ユニットのテーマに即した簡単な英作文やプレゼンテーションの発表も定期的に行います。					
注意点						
本科目の区分						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	イントロダクション Unit 1: Meeting People		1	
		2週	Unit 1: Meeting People		1	
		3週	Unit 2: Countries and Nationalities		1	
		4週	Unit 2: Countries and Nationalities		1	
		5週	Unit 3: Family		1	
		6週	Unit 3: Family		1	
		7週	中間試験		1	
		8週	試験返却 Activities		1	
	2ndQ	9週	Unit 4: Describing People		1	
		10週	Unit 4: Describing People		1	
		11週	Unit 5: Food and Drinks		1	
		12週	Unit 5: Food and Drinks		1	
		13週	Unit 6: Things We Do		1	
		14週	Unit 6: Things We Do		1	
		15週	期末試験		1	
		16週	試験返却 Activities		1	
後期	3rdQ	1週	Unit 7: At Home		1	
		2週	Unit 7: At Home		1	
		3週	Unit 8: Free Time Activities		1	
		4週	Unit 8: Free Time Activities		1	
		5週	Unit 9: Popular Sports		1	
		6週	Unit 9: Popular Sports		1	
		7週	Unit 10: Big Events		1	
		8週	中間試験		1	
	4thQ	9週	試験返却 Activities		1	
		10週	Unit 10: Big Events		1	
		11週	Unit 11: Plans		1	
		12週	Unit 11: Plans		1	
		13週	Uni 12: On Vacation		1	
		14週	Uni 12: On Vacation		1	
		15週	学年末試験		1	
		16週	試験返却 Activities		1	
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	3	
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	3	
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	3	
評価割合						
			試験	課題	合計	
総合評価割合			70	30	100	
基礎的能力			70	30	100	